

外国語科における教科の本質に迫る授業づくり

外国語科 田中 健太

1 単元名

Lesson 5 Places to Go, Things to Do
(NEW CROWN English Series 3) (3年)

2 目標

- 新潟大学の留学生に附属新潟中学校の学校行事や学校生活を紹介する活動を通して、以下のことができるようになる。
 - ・ 関係代名詞（主格・目的格）を用いて、附属新潟中学校の学校行事や学校生活を説明する技能を身に付けること
 - ・ 留学生の興味や、背景となる文化の違いに配慮しながら、附属新潟中学校の学校行事や学校生活を説明すること【話すこと（発表）】
 - ・ 仲間と表現し合い、協働的に表現力を高め、附属新潟中学校の学校行事や学校生活を説明しようとする態度を身に付けること

3 評価規準

知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・ 関係代名詞(主格・目的格)の意味・用法を理解している。・ 附属新潟中学校の学校行事や学校生活を英語で説明する技能を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none">・ 留学生の興味や、背景となる文化の違いに配慮しながら新たな表現や視点を見出し、附属新潟中学校の学校行事や学校生活を英語で説明することができる。	<ul style="list-style-type: none">・ 附属新潟中学校の学校行事や学校生活を、留学生に英語で説明しようとしている。・ 仲間と協働的に表現の幅を広げたり考えを深めたりしようとしている。

4 本単元について

(1) 学習する意義

本単元を学習する意義は、留学生に附属新潟中学校の学校紹介をすることを通して、「留学生に英語で学校紹介することができた」「自分とは異なる言語やその背景にある文化をもった人々と分かり合うことができた」というコミュニケーションの喜びを実感できることにある。教科書では、世界の様々な国・地域とその文化について触れる。グローバル化が急速に進展する中で、外国の文化に触れることは、生徒にとって興味を刺激されるだろう。また外国の文化に触れることは、生徒が自国の文化を見直すことにもつながる。生徒は普段の英語の授業では、ALT との授業以外は、あまり外国語を使う必然性がない中で英語を練習している。本単元で行う留学生に附属新潟中学校の学校紹介をする活動において、英語でコミュニケーションがとれれば、生徒は大きな自信を得て喜びを感じるだろう。またこの活動を通して、相手の背景にある文化の違いに気づき理解することで、相手の考えに共感する姿勢を身

に付けたり、自分たちが当たり前と思っている日本の文化が他者から見れば当たり前ではないということを知ったりすることができるだろう。本単元での学習は、言語材料の習得と人間性の育成、両方で有意義なものとなるはずである。

また、附属新潟中学校の学校行事や学校生活などを説明するために、本単元で学習する関係代名詞（主格・目的格）を活用し、「どのような行事であり、何をするか」「どのような活動であり、目的は何か」など様々な内容を組み合わせ、具体的な特徴を表現することを学習する。例えば、ある行事を紹介する際に、1・2年時では「どのような行事であるか」（aの文）と「そこでは何をするか」（bの文）という2文で表現していたものを、関係代名詞を用いると1文で簡潔に表現することができるようになる。

a. This is a Sports Day.

b. It is called “Tokiwa Taiikusai”.

→ This is a Sports Day that is called “Tokiwa Taiikusai”.

上記のように2つの文を繋ぎ、関係代名詞の前にある名詞（先行詞）を修飾する節を作り、生徒はその内容を簡潔に説明できる。関係代名詞を学習することで英語の文構造（文法、語順、品詞など）について修飾関係を基により深く理解したうえで、説明したいものを詳しく説明できるようになるよさがある。

（2）構想

本単元では初めに、留学生とお互いに自己紹介をした後、「附属新潟中学校の学校行事や学校生活を紹介してほしい」という依頼を受ける状況設定をする。そうすると生徒は、依頼に応えたいと思うが、表現力の乏しさから伝えたい内容をうまく伝えられず、よりよい紹介をしたいという目的意識を高める。そして、留学生に附属新潟中学校の学校行事や学校生活の紹介をよりよくするためには、どのようにすればよいだろうかという課題を見いだす。そこで本単元の授業では、コミュニケーションの目的や場面、状況を基に、それらに応じた必要な表現方法を使う活動を設定したり、習熟を図る活動を設定したりする。例えば、附属新潟中学校の行事や学校生活、日本の文化などを留学生に紹介するという状況で、ロールプレイを行ったり、どんな表現が有効だったか仲間の表現を共有し、協働して練り上げたりすることで、表現の幅を広げていったり、考えを深めたりしていく。

また、従前の授業における生徒の実態として、言語材料をうまく組み合わせる自分の考えや気持ちを表現することができる一方で、変化するコミュニケーションの場面、状況に対応できず、考えをうまく伝え合えない姿があった。他者と即興的に会話したり、課題解決に向けて説明をしたりする場面で、相手のねらいや主張をとらえたうえで、相手に配慮したり適切な表現方法を使ったりして、コミュニケーションをとることができないのである。そこで、留学生からは生徒の学校紹介の内容について、背景にある文化が異なることから生じる疑問をぶつけてもらう。これにより、生徒は自分の考えが伝わらない理由が、表現方法の乏しさだけでなく、他者との考え、価値観、文化の違いへの配慮のなさにあることに気付き、相手に配慮しながら変化する場合に応じた表現を新たにしていく。

5 本単元における具体的な手だて

<手だてア>

相手のねらいや主張をとらえ、配慮したコミュニケーションを行う必要性のある、留学生との交流活動を段階的に組織する

相手のニーズや背景となる文化の違いをとらえ、それに応じるにはどのような表現がいいのだろうかという課題を見だし、生徒の「留学生に附属新潟中学校の学校行事や学校生活をよりよく紹介したい」という目的意識を醸成させるために行う。

単元の導入時、留学生と生徒は自己紹介をし合う活動を行う。そこで生徒は、既習の言語材料を用いて自分のことを自己紹介したり、その留学生はどの国や地域出身なのか、日本にきた理由や興味は何なのかなど、相手が紹介したいことを聞き取ったりする。留学生と話すという英語を使う必然性のある中で、生徒は英語を使うことに喜びを感じ、相手に興味をもって質問をするなど情報を得ようとするだろう。そして自己紹介の最後に、留学生から「附属新潟中学校の学校行事や学校生活を紹介してほしい」という依頼を受ける状況設定をする。生徒は即興的に、留学生に対してどんな内容をどんな表現で紹介すればよいか考えるが、表現力の乏しさから伝えたい内容をうまく伝えられないだろう。生徒は活動の難しさを実感したり、よりよい紹介がしたいという憧れを抱いたりし、ゴールの活動に向けて、単元を通して必要な表現方法を身に付けていく必然性を感じる。その後に授業者は、どのような内容を紹介すればよいか、生徒に問いかける。生徒は、自分たちが今知っている情報は留学生の自己紹介の内容にあることを振り返り、留学生のニーズや興味などの踏まえるべき視点に着目する。

これまでの状況設定や、授業者とのやり取りから、生徒は以下の課題をもつ。

<本単元における課題>

留学生に附属新潟中学校の学校行事や学校生活をよりよく紹介するためには、どのようにすればよいだろうか

この課題の達成に向けて、生徒は明確に目的意識をもちながら、見通しをもって必要な表現方法を身に付けていく。

ゴールとなる活動では、生徒は附属新潟中学校の学校行事や学校生活を紹介するが、さらにその後で留学生から、生徒が紹介した内容の中で、背景にある文化が異なることにより生じる疑問をぶつけてもらう。例えば、「体育祭ではなぜ団体種目ばかりで個人種目はしないのか。」（中国）、「なぜ自分たちで清掃するのか。」（ドイツ）、「入学式とは何か。」（台湾）、「なぜ卒業式がこんなに静かなのか。」（アメリカ）、などである。これにより、生徒は自分の考えが伝わらない理由が、自分たちの英語の表現方法だけではなく、相手の背景にある文化や価値観などにあることに気付く。生徒は相手の背景にある文化や価値観を調べ直し、相手に必要な情報を入れたり表現方法を工夫したりしながら、新たな紹介を完成させる。この活動を通して、相手への配慮を伴った、より深いコミュニケーションができたことの喜びを、生徒は実感するだろう。

<手だてイ>

ねらいに合わせてグループ編成を工夫したり、教具を効果的に用いたりして、協働的によりよい表現を追求する活動を組織する

外国人に附属新潟中学校の学校行事や学校生活、日本の特有のものを紹介する活動を通して、自分の考えや気持ちをどのように表現すればよいか考え、生徒同士で伝え合う中で、考えや表現を吟味して協働的に練り上げるために行う。

生徒は一人が外国人役、一人が説明する中学生役となり、ロールプレイを行う。生徒は英語で表現しづらいことに会うと、日本語の単語をそのまま使ってしまうこともしばしばある。そうしては、外国人を相手にコミュニケーションを行うための表現力は身に付いていかない。

そこで活動の後では、班ごとにホワイトボードを用いて、英語で表現できなかったものを生徒同士が共有する活動を行う。授業者が安易に答えを与えるのではなく、仲間の表現を共有したり、既習の言語材料を使った表現方法を協働して練り上げていったりすることで、表現の幅を広げていく。これまでの授業でもしばしば表現を共有する場面を設けてきたが、クラス全体の前では、表現できなかったものを発言しづらい気持ちをもったり、時間内にすべて共有できなかったりして、十分ではなかった。ホワイトボードを用いて班単位で共有することによって、発言しづらい気持ちを解消し、それぞれのもつ疑問を出し切らせたい。目的の達成にせまるものか、という視点を基に、仲間と協働して内容や考えを練り上げる。

また、留学生に附属新潟中学校の学校行事や学校生活を紹介する活動の前には、グループ編成を工夫して、考えや表現を練り上げる活動を行う。同じ行事を紹介する者同士で集まったり、同じ留学生に紹介する者同士で集まったりして、紹介の内容や表現を共有し、吟味して、協働して練り上げる。自分とは異なった紹介内容や表現に出会ったり、アドバイスを受けて自分の紹介内容や表現を改善したりすることで、協働的に表現力を高めることになる。

<参考文献・資料>

- 和辻龍『こんなに違う!?ドイツと日本の学校』産業能率大学出版部
- 李景芳『日本人の不信感 中国人の本心』株式会社さくら舎

6 本単元における構想 (全 11 時間 本時 10 / 11)

目的意識	生徒の意識	学習活動・内容	教師の支援・指導	評価の方法
<p>留學生に附属新潟中学校の学校行事や学校生活を紹介します。</p> <p>うまく伝わらないな、どうしたらうまく伝えられるかな</p>	<p>① 留學生と自己紹介をし合う活動 [1時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 留學生と初対面で自己紹介をし合う。 ○ 留學生から「附属新潟中学校の学校行事や学校生活を紹介してほしい」という依頼を受ける。 ○ 附属新潟中学校の学校行事や学校生活を即興的に述べる活動をする。 <p><本単元における課題> 留學生に附属新潟中学校の学校行事や学校生活をよりよく紹介するためには、どのようにすればよいだろうか。</p>	<p>○ 留學生と自己紹介をし合う活動を組織する。</p> <p>○ 留學生から「附属新潟中学校の学校行事や学校生活を紹介してほしい」という依頼をさせる。(手だてア)</p> <p>○ 附属新潟中学校の学校行事や学校生活を即興的に述べる活動を組織する。(手だてア)</p> <p>○ 学校行事や学校生活の紹介内容を問う。</p>	<p>【主態】 ワークシート</p>	
<p>留學生に</p> <p>学校行事や学校紹介をどのように紹介するのだろうか</p>	<p>② 附属新潟中学校や日本の文化で特有のものを紹介する活動 [1時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 関係代名詞・主格の that, which の肯定文の意味・用法を確認する。 ○ 附属新潟中学校で特有のもの(生徒憲章, 完歩大会など)や日本の文化で特有のものを留學生に説明するならば、どのような内容で説明するか考える。 	<p>○ 関係代名詞・主格の that, which の肯定文を導入し、ドリル活動に取り組みさせる。</p> <p>○ 附属新潟中学校の先生や生徒、日本の文化を即興的に述べる活動を組織する。(手だてイ)</p>	<p>【思判表】 【知技】 ワークシート</p>	
<p>附属新潟</p> <p>学校行事や学校紹介のイメージが伝わり、喜んでもらえるのがよいだろう</p>	<p>③ 附属新潟中学校の人物や、日本の有名な人物を紹介する活動 [1時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 関係代名詞・主格の who の肯定文の意味・用法を確認する。 ○ 附属新潟中学校の先生や生徒、日本の有名な人物(高橋留美子, 花角英世など)を留學生に説明するならば、どのような内容で説明するか考える。 	<p>○ 関係代名詞・主格の who の肯定文を導入し、ドリル活動に取り組みさせる。</p> <p>○ 附属新潟中学校の先生や生徒、日本の有名な人物を即興的に述べる活動を組織する。(手だてイ)</p>	<p>【思判表】 【知技】 ワークシート</p>	
<p>中学校の</p> <p>学校行事や学校紹介のイメージが伝わり、喜んでもらえるのがよいだろう</p>	<p>④ 附属新潟中学校や新潟の有名なスポットを紹介する活動 [1時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 関係代名詞・目的格の that, which の肯定文の意味・用法を確認する。 ○ 附属新潟中学校や新潟の有名なスポットを留學生に紹介するならば、どのような内容で説明するか考える。 	<p>○ 関係代名詞・目的格の which, that の肯定文を導入し、ドリル活動に取り組みさせる。</p> <p>○ 附属新潟中学校や新潟の有名なスポットを即興的に述べる活動を組織する。(手だてイ)</p>	<p>【思判表】 【知技】 ワークシート</p>	
<p>学校の</p> <p>学校行事や学校紹介のイメージが伝わり、喜んでもらえるのがよいだろう</p>	<p>⑤ 学校紹介のモデル文を読解する活動 [1時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書 GET1・2・3 を、附属新潟中学校の紹介に編集したモデル文を読み、学校紹介のイメージをふくらませる。 	<p>○ 教科書 GET1・2・3 を編集したモデル文を生徒に提示する。</p>	<p>【知技】 ワークシート</p>	
<p>行事や</p> <p>準備してきた紹介が伝わり、喜んでもらえるといいな</p>	<p>⑥ 留學生に附属新潟中学校の学校行事や学校生活の紹介内容を作成する活動 [1時間]</p> <p>⑦ 留學生に附属新潟中学校の学校行事や学校生活を紹介する内容や表現を仲間と協働して検討 [1時間]</p>	<p>○ 留學生に、附属新潟中学校の学校行事や学校生活を紹介する内容を作成させる。</p> <p>○ 4人1組にし、紹介する内容や表現を検討する活動を組織する。(手だてイ)</p>	<p>【思判表】 ワークシート 録画データ</p>	
<p>生活</p> <p>なぜ伝わらないものがあったのだろうか</p> <p>背景にある文化の違いにも配慮して表現を考え直す</p>	<p>⑧ 留學生に附属新潟中学校の学校行事や学校生活を紹介する活動 [1時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 留學生に附属新潟中学校の学校行事や学校生活を紹介する活動 ○ 留學生から疑問を問われる。 <p>⑨ 留學生に紹介する内容や表現を考え直す活動 [1時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 伝わらなかった部分について考える。 ○ 背景にある文化の違いに配慮する必要があることに気付く。 ○ 背景にある文化や価値観を調べ直す。 ○ 相手に必要な情報を入れたり表現方法を工夫したりしながら、相手に配慮して、新たな紹介を完成させる。 	<p>○ 留學生に附属新潟中学校の学校行事や学校生活を紹介させる。(手だてア)</p> <p>○ 8人を1グループにし、1人の留學生に順番に紹介させる。</p> <p>○ 紹介の場面を録画する。</p> <p>○ 留學生から、背景にある文化が異なることにより生じる疑問を問わせる。(手だてア)</p> <p>○ なぜ伝わらない部分があったのか、背景にある文化の違いに配慮する必要があることに気付かせる。(手だてア)</p> <p>○ 背景にある文化の違いに配慮した紹介を作成し直す。</p>	<p>【思判表】 ワークシート</p>	
<p>たい</p> <p>学校行事や学校生活の紹介が伝わって、喜んでもらったよ</p>	<p>⑩ 附属新潟中学校の学校行事や学校生活を留學生に再度紹介する活動 [1時間]</p>	<p>○ 再度、附属新潟中学校の学校行事や学校生活を留學生に紹介させる。(手だてア)</p> <p>○ 8人を1グループにし、1人の留學生に順番に紹介させる。</p> <p>○ 評価のため、紹介場面を録画する。</p>	<p>【思判表】 ワークシート 録画データ</p>	
	<p>⑪ 単元の振り返り [1時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1回目と2回目の学校紹介を読み比べし、相手への配慮の過程をメタ認知する。 ○ プロGRESSカードやワークシート、録画した紹介を基に、これまでの学習過程を振り返る。 	<p>○ 教科書 USE-Read を改編した文を生徒に提示する。</p> <p>○ 1回目と2回目の学校紹介の文を比べさせ、考えを記述させる。</p> <p>○ プロGRESSカードやワークシート、録画した紹介を基に、これまでの学習過程を振り返らせる。</p>	<p>【主態】 ワークシート</p>	

